

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	浅沼武敏
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	教授
在籍年	7 年

教育の責任

獣医学に関する知識及び技能を基盤として、実践的かつ応用的な教育を通して、高い生命倫理と豊かな人間性、国際的視野を備え、ライフサイエンス分野の発展、及び動物とヒトの健康と維持に貢献する人材の養成を目的とする。

教育の理念

本学部学科の社会的な存在意義は獣医師資格を持った人物の輩出であり、学生は獣医師資格を持った上で、社会に貢献することが望まれる。国家試験問題の正答を導くために、ステレオタイプの 1 対 1 対応の発展性がない知識では対応できない。そのために、獣医学科学生には国家試験に合格する為の基礎となる知識を身に付け、獣医学に対して応用力・推察力・適応力・即応力を身につけてもらう必要がある。これらの力は国家試験に限らず、人生においても、正答の無い問題に対して、正答に近い選択ができる力となる。

教育の方法・方針

- ・まずは、国家試験に合格できる力を身に付けさせる（国家試験の 1 ヶ月前までに）
- ・本学部学科卒業生は、獣医師にならねば、研究も公衆衛生、臨床のどれも始まらない。
- ・過去の国家試験問題をベースに、“出来る（正答を選択できる）”という成功体験を積ませる。
- ・個人的には担当している放射線学・画像診断学において、読影のコツを伝授し、臨床問題に対して読解力・読影力を養成し、そこから生まれる想像力を培う。

上記を達するために、正規の講義（放射線生物学・画像診断学）に加えて、科目責任者である総合獣医学演習Ⅱ（獣医学科 6 年生対象）の正規授業時間以外の 4 日間を関連補講とし、国家試験科目担当の教員に担当科目の国家試験対策の講義を実施してもらうように設定した（全講義時間 43 時限）。さらに、直前講習会として国家試験の 3 週間前に獣医師資格をもった若手教員によるポイント講義を実施した。個人的には、上記と関係なく、ボランティアゼミとして、過去の画像関連国家試験を受講希望学生と読影解答する講義を実施した（70 名、全講義時間 51 時限）。

教育の成果

1 期生の合格率は 67.5%であり、全国でも見たこと無いくらいの低い合格率であったが、小職が国家試験対策の責任者として対応した 2 期生の合格率は 81.9%となり、全国 17 校中 12 位、私立大学では 2 位となった。これほどわかりやすい成果は無いと自負しており、小職に限らず国家試験対応した教員達の成果であり、なにより、2 期生が期待に答えてくれた結果である。

今後の目標

小職を含めた国家試験対策を中心的に行っている教員達が引退後も、若い教員が当たり前として無償で学生に対応してもらえる体制づくりをし、本学部学科の教育スタイルとしたい。

根拠資料

本学令和 6 年度獣医師国家試験合格者数 116 名中 95 名（合格率 81.9%）